

特別賞（北海道教育委員会教育長賞）

# 周りの人の大事さと思いやり

根室市立おちいし義務教育学校 九年 小谷 美樹

皆さんは障がい者の方々をどう思っていますか？私は中学生になるまで正直あまりよく知らなかったですし、正直に言うと良く思っていませんでした。ですがある出来事をきっかけにその考えは180度ぐらい変わりました。

それは、中学二年生の一月くらいの事です。私は骨折をして手術をしてから治るまでしばらく車椅子生活をしていました。店に行くのも恥ずかしくて、友達に会うのも「足の傷が気持ち悪い」などと言われそうで嫌で、車に乗っても絶対降りなかったり、家にこもったりしていました。しかし、とある事をきっかけで私は車椅子を押してもらいながら徐々に店に行くことになりました。すると予想していた通り、様々な人や子供に見られて怖かったですし嫌な気持ちになりました。そんな時、同じように車椅子でお買い物をしているおばあさんや、おそらく何かの障がいを持っているのであろう男の子を見かけました。私と同じような境遇でありながら、その方々はとても堂々とお買い物をしているように私には見えたのです。その時私は、なんだか少しだけホッとしたのと「凄いな」と思いました。

何故なら私は周りが怖くて怯えていたのに、その方々は、堂々として全く周りの事を気にしていなかったからです。その後から私は、車椅子で様々な店に行けるようになりました。

他にも、私が店で車椅子に乗っていてドアを開けることができなくて困っていたら、たまたまいたお姉さんが開けてくださり、「ありがとうございます」と言うとお姉さんが、「大丈夫だよ若いのに大変だね、気をつけてね」と言ってくださり私はその時とても嬉しかったですし優しいなと思いました。その後も足が治るまで色々な店や場所で様々な人に助けていただき、私は確かに嫌な目で見ってくる人も傷についてちょっと嫌な事を言うてくる人もいるけど、この人たちのようにそんな事を気にしないで助けてくれる人もいるんだなと思いました。

その後、私はテレビで障がい者ではあるけども料理を作って販売するために頑張っている方々を見たり、実際に障がいをもった方々が作ったものが販売さ

れている所にも行ったりした事があります。あくまで障がい者というだけでそこにあったお菓子などは、どれもとても美味しそうで私もクッキーを買いました。

私は骨折するまで、障がいをもっている人は障がい者とはか思っておりませんでした。しかし、中学二年生で骨折してからは、私自身周りの目を気にしながら生活をしていました。その間のでき事から私は、例えちょっと周りとは違う感じだとしてもその人は私達と変わりのない人間だという事を改めて思いました。ですから、これからもし困っている体の不自由な老人の方々を見たら助けたいですし、例え体のどこかが私達と違っていても、嫌な顔をするのではなく受け入れてさらには困っていたらその人を助けてあげたいと私は思います。